

幼児教育プログラムの策定に当たって

平成23年8月

福井県教育庁義務教育課幼児教育支援室

I 幼児を取り巻く環境

1 現在の学校等の状況

① 4年連続全国トップクラスの学力

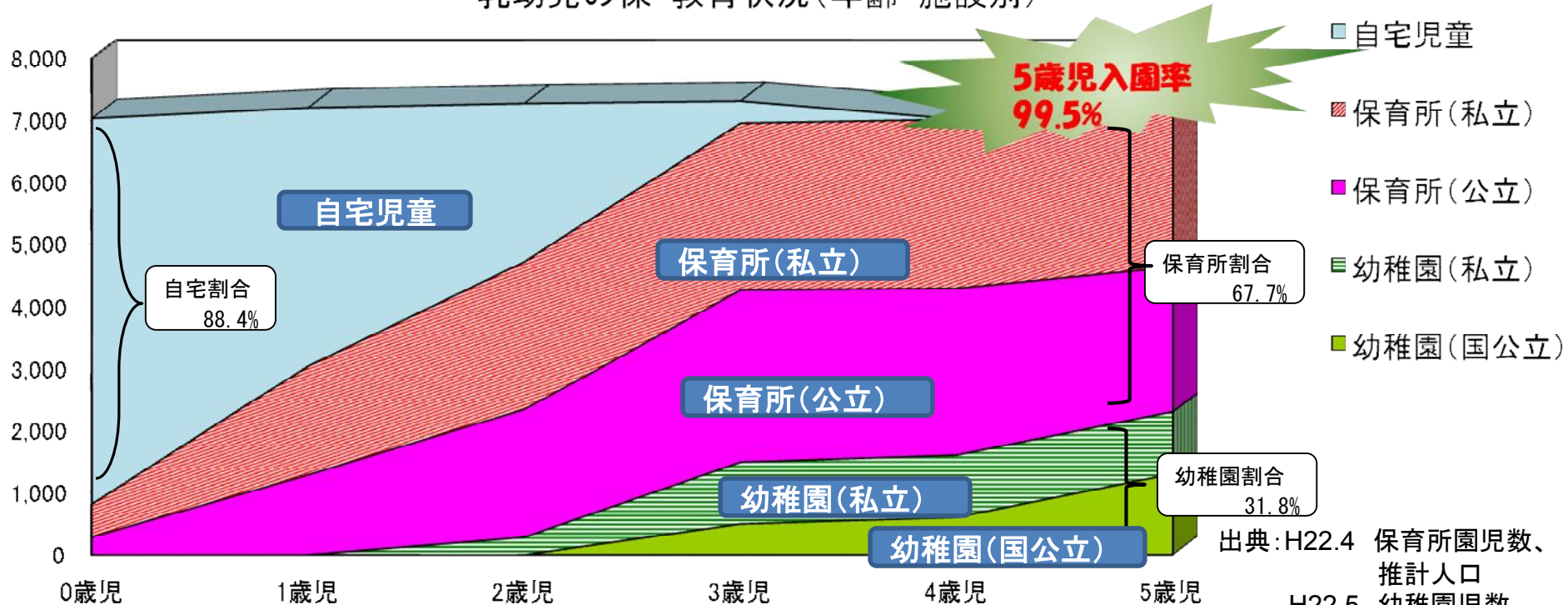
区分	H19	H20	H21	H22
小学6年	2位	2位	2位	2位
中学3年	1位	1位	1位	1位

出典: 全国学力・学習状況調査



② 保育所・幼稚園通学(通所)率“日本一”(待機児童ゼロ)

乳幼児の保・教育状況(年齢・施設別)

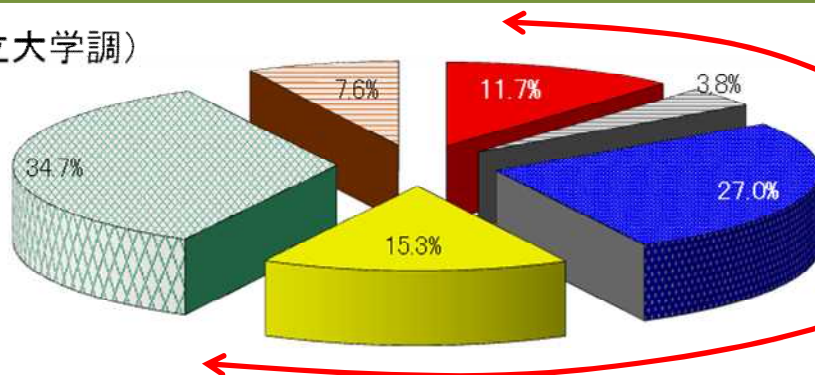


出典: H22.4 保育所園児数、推計人口
H22.5 幼稚園児数 1

2 現在の家庭の状況

① “祖父母”に支えられた育児

3世代同居の状況(H9県立大学調)



3世代同居

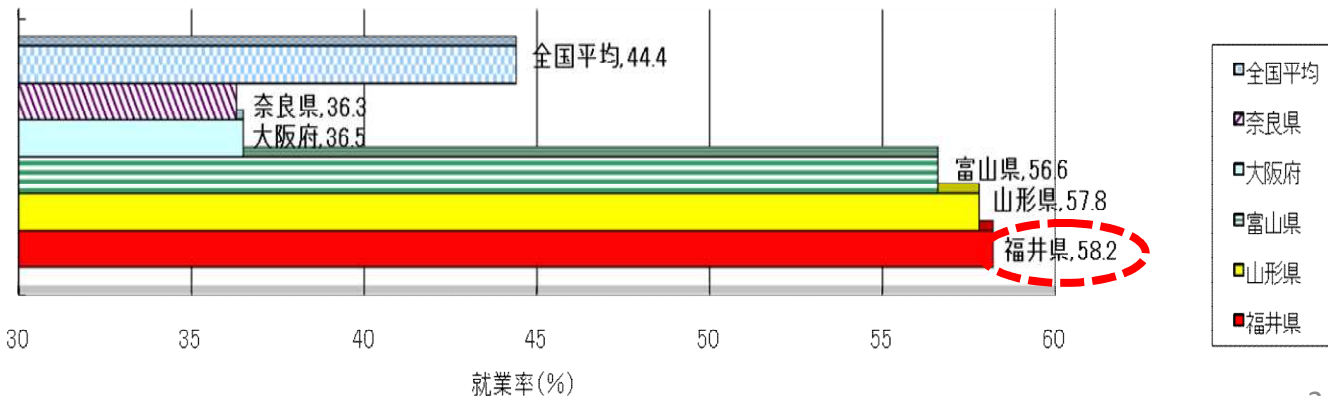
- 同じ家屋内(2世帯住宅など)
- 同じ敷地内の別家屋
- 車で15分未満の範囲
- 車で15～30分以内の範囲
- 住んでいない
- 無回答

② 母親が”働き者”～家事・育児等の再立～

順位	1位	2位	(平均)	38位	46位	47位
子育て期の育児時間	奈良県 139分	徳島県 133分	(平均) 108分	福井県 91分	岩手県 71分	青森県 67分

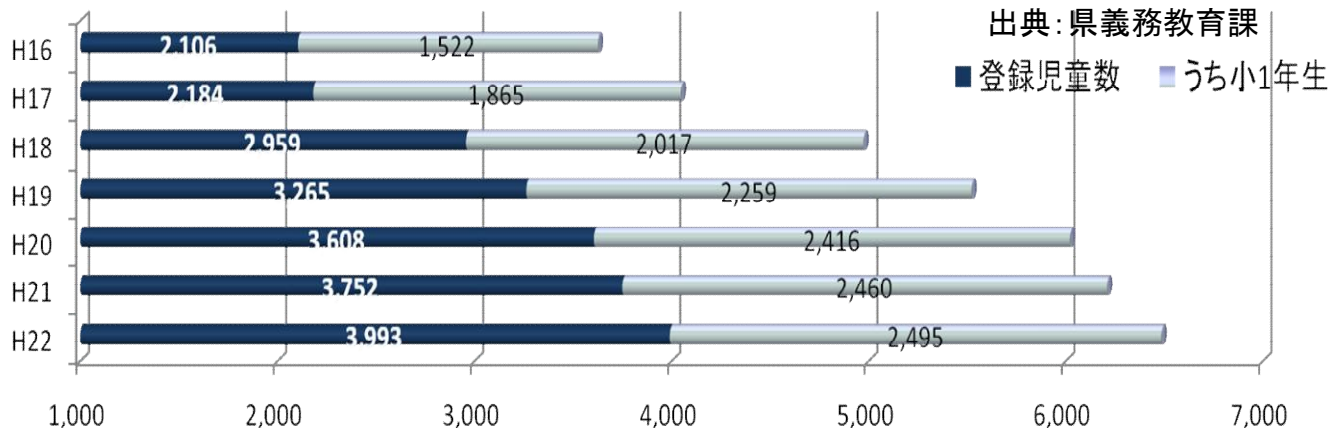
共働き率(女性の就業率) 出典:H17国勢調査

出典: H18家庭生活基本調査

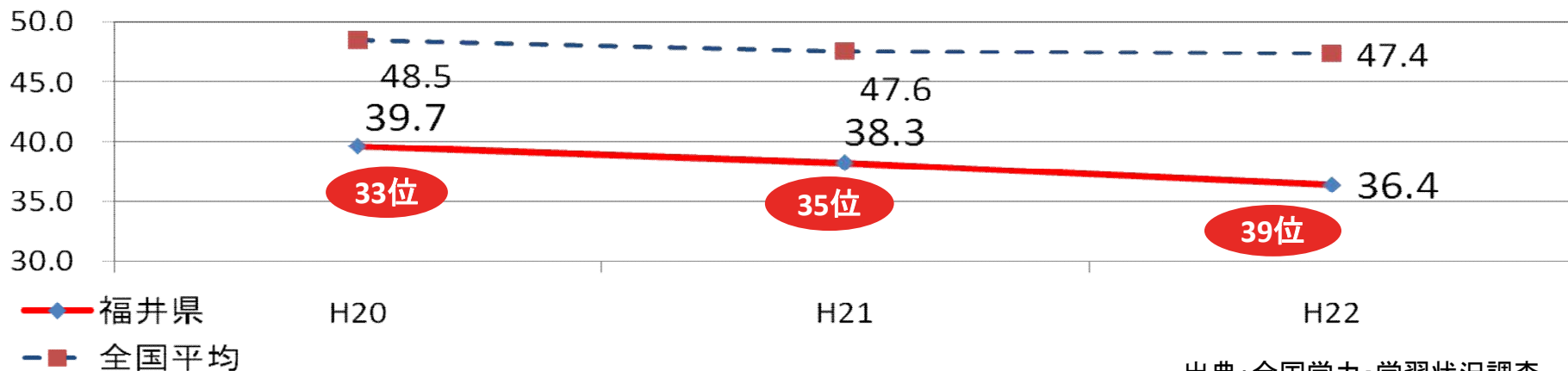


3 現在の家庭の状況

① 学校と地域の連携 ～放課後児童クラブ～



② 地域で教育 ～学習塾の利用状況(小学6年生)～



出典：全国学力・学習状況調査

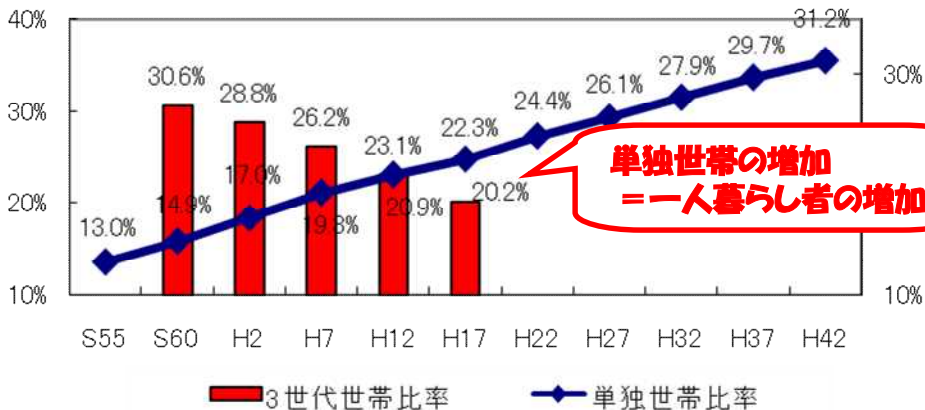
Ⅱ 18年後の幼児環境

1 福井型幼児教育を取り巻く環境 ～2030(H42)年まで18年～

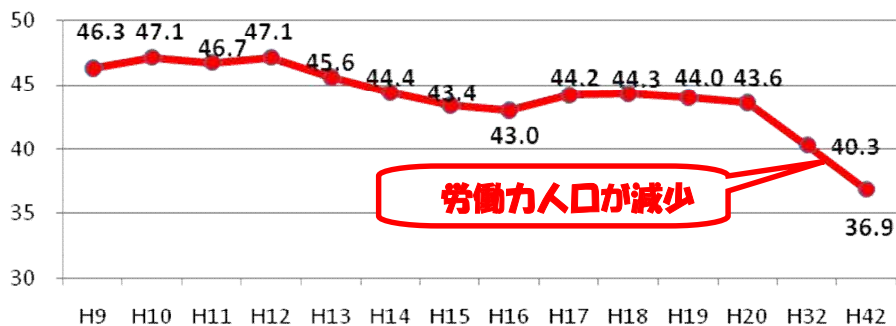
2030年の本県の社会環境

- ① 3世代同居率の減少、単独(高齢者)世帯率の増加
- ② 幼児数の減少
- ③ 労働力の減少(H17 44.2万人→H42 36.9万人)
- ④ 高齢化率の上昇(H17 22.6%→H42 33.0%)

①本県の3世代・単独世帯比率の将来推計



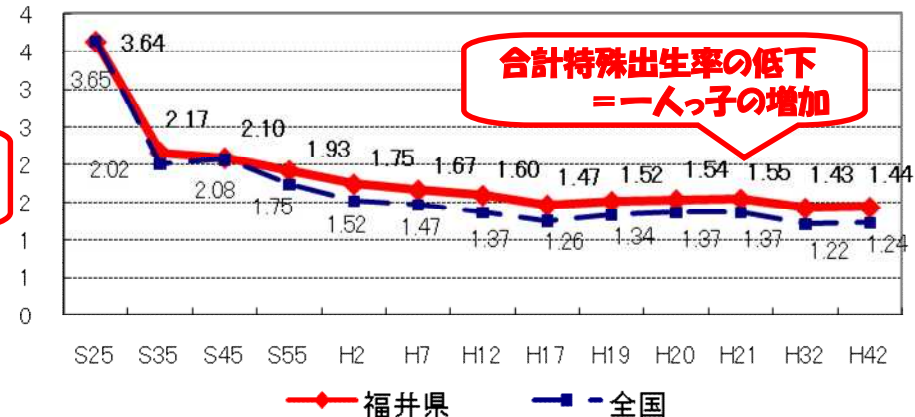
③本県の労働力人口の推移と将来推計



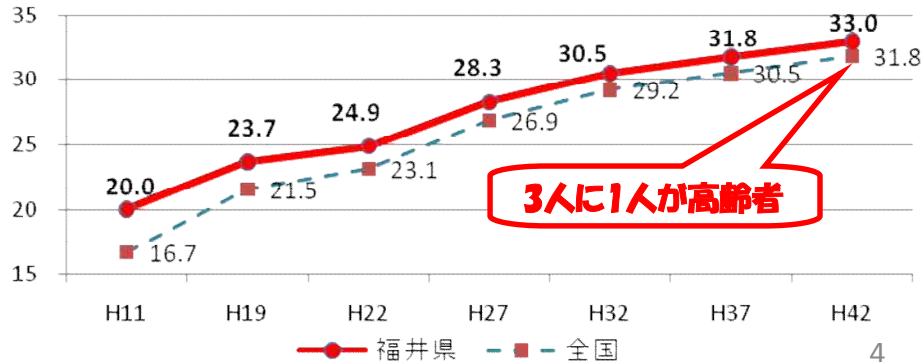
2030年の未来を受け継ぐ幼児への期待

- ① 3人に1人の高齢者を支える県民として
- ② 本県経済を支える産業人材として
- ③ ふるさと“ふくい”を愛する住民として

②合計特殊出生率の推移(将来推計)



④本県・全国の高齢化率の推移と将来推計



2 幼児・家族のライフスタイルの変化

- 一人っ子・単独世帯の増加に伴い、幼児の生活スタイルが大きく変化
- 保護者の就業(共稼ぎ世帯)に伴い、幼児と家族の生活時間が大きく変化



幼児環境の変化

【一人っ子・単独世帯の増加】

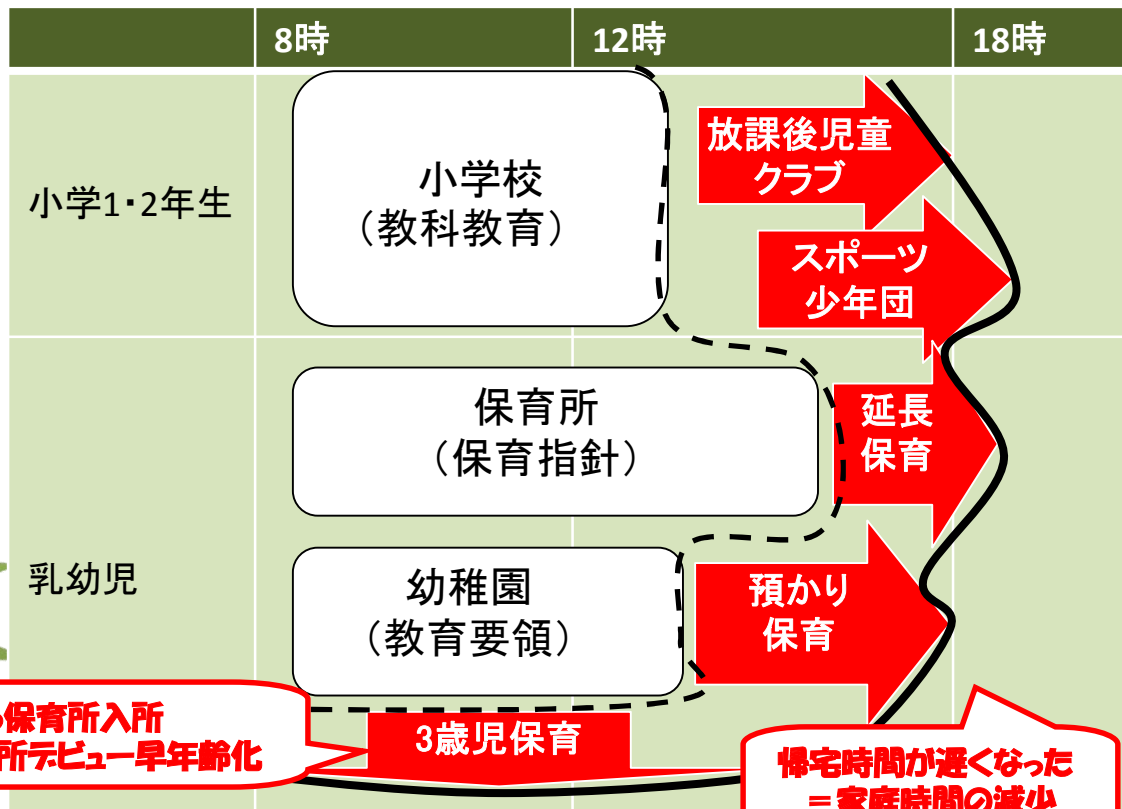
- ☆ 異年齢交流や自発的な遊びの機会が減少
- ☆ 祖父母からの遊び・地域文化等の伝承機会の減少

【保護者の就業】

- ☆ しつけや生活基礎の修得する機会が減少
- ☆ 規則正しい生活が難しく、保育所・幼稚園生活に支障

幼児の家庭時間が減少
学校等の公的機関が担う時間が高くなっている。

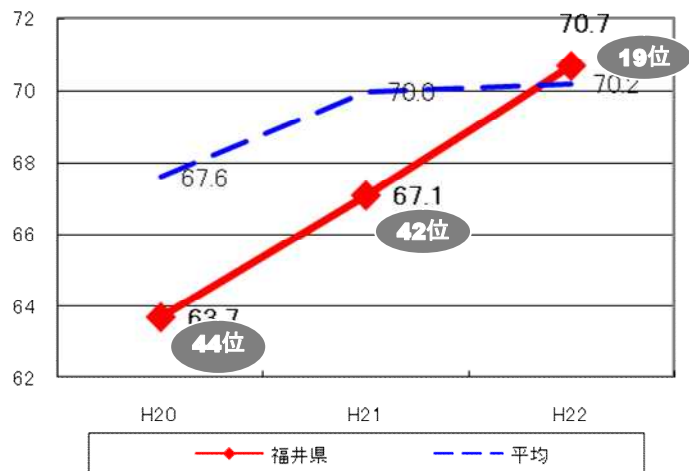
幼児生活時間の変化



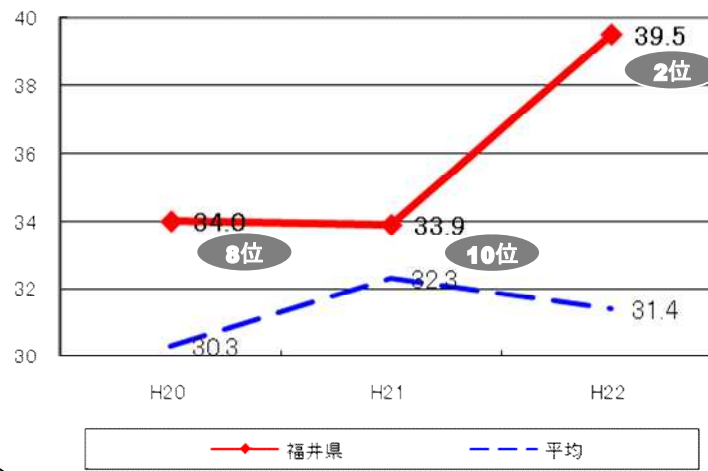
Ⅲ 本県児童の人間関係・将来に関する意識

H22全国学力状況調査小学6年生アンケート結果では、全国に比べて将来の夢や目標、人間関係についての意識が低くなっている。

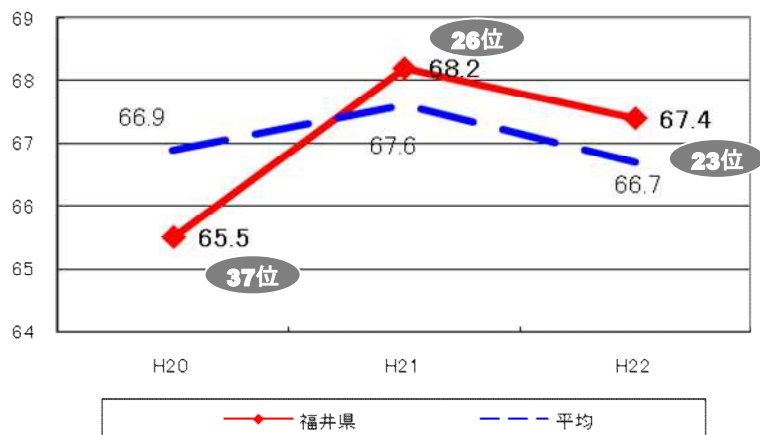
① 将来の夢や目標を持っているか



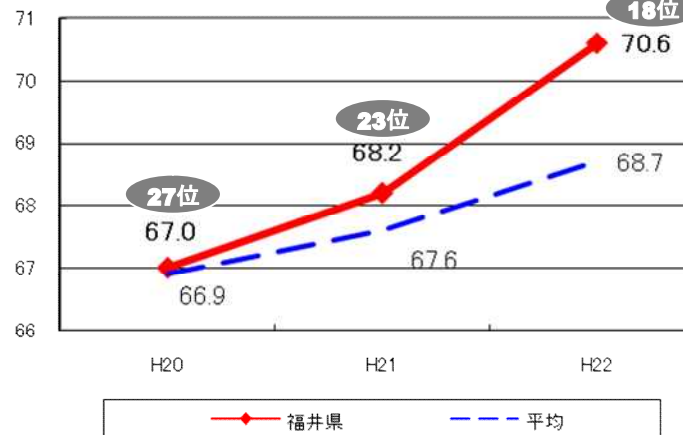
② 自分にはよいところがあると思うか



③ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思うか



④ 人の役に立つ人間になりたいと思うか



IV 幼児教育施設関係者の主な意見

1 園運営や保幼小連携

【保育所・幼稚園】

- 幼稚園＝集団で遊ぶ、保育所＝個々を養護。
- **保育所・幼稚園を所管する行政組織がバラバラで、現場では相談部署がよくわからない。**
- 子ども園では、保育所と幼稚園に関する書類作成業務が多く、かつ煩雑。
- **園設立の精神**は行政に対し譲れない。
- 本県は学力日本一だが、全国・本県ともに**幼稚園出身者が成績上位者**と聞いている。
- 小学校の立場で、保育所・幼稚園出身者を色眼鏡で見たことはないが、保育所出身者の方が良い意味でも、悪い意味でも**“元気が良い”**印象がある。



【園児の習い事】

- 園児を指導する習い事の指導者との交流はない。
- 課外カリキュラムとして公文教室、音楽教室、サッカーなどを保護者を選択させており、保護者にとって習い事に別途行かせる手間が省けて好評。
- **児童の興味・関心のあることにチャレンジ**できる場合はよいこと。
- **“勝利至上主義”のスポーツ少年団の場合、宿題を忘れたり、授業中眠い状態になるなど支障がある場合もある。**



園内活動 体操教室風景

【保幼小連携】

- 地区内の幼稚園、小学校と保育所が隣接しており、普段から職員・園児が交流。
- 地区内の小学校と隣接しており、園児は合同ランチや体育大会に参加。
- 幼稚園で自立心を養成しても、**小学校1年生は“赤ちゃん”扱い**にされる。
- 地区内の幼稚園・保育所を見学し、入学予定の園児を事前に確認。

【職員の待遇】

- 公立幼稚園や保育所と私立幼稚園の**教員間の待遇面**も課題(私立幼稚園では結婚を契機に退職するケースがある)。
- これだけ就職難と言われる中、教員の代用教員の求人確保も困難で、育児休暇取得・復帰が難しい。



毎週月曜日にお参りする園児

【一日保育体験】

- 保護者の園活動(保育体験)に参加する日を「P(パパ)G(グランパ)の日」とし月1回設定。
- **一日保育体験**を実施し、保護者の関心が高まることと職員の緊張感が高まることが上げられる。

2 職員研修等

- 保育所と幼稚園の職員研修は似通っている内容も多い。
- 職員の多くは**保育士と幼稚園教諭免許**を有している。
- 公立幼稚園には**幼稚園担当指導主事が巡回指導**しているが、私立幼稚園にはない。
- 幼稚園・保育所は保幼交流の機会がなく、違いなどを共有できていない。**県が交流する機会**を設けてほしい。
- 様々な団体からの研修案内があり、日程が重複する例も見られる。
- 幼稚園でも乳児(2歳児)保育を受け入れる例も見られ、保育所との合同研修も効果的。
- 職員研修を受講する意欲があるが、職員が少なく、園外研修の参加が困難



園内活動 清掃活動風景

3 保護者等の意識

- 子ども園に移行後、**保育所型(長時間保育)**を希望する保護者が増加
- 祖父母と別居(核家族化)により、育児の伝承、指導を受けていないため、**しつけ・生活基盤に対する保護者の不安**が多い。
- **子育てよりも仕事が楽だ**という保護者の意見も聞く。園からは、せめて土日だけでも親の愛情を注いでほしいと指導。
- できない問題に果敢にチャレンジする意識が低下しているように思う。自分のよいところや世の中に貢献する意識の醸成が**幼児教育の原点**。
- 他県に比べて、**福井県は学力日本一の環境**(保護者の姿勢、コミュニケーション、親子愛など)が備わっている。
- 父兄の会が、農業体験やバザーなどを企画・運営し、園活動に熱心。
- **働く保護者**の場合、日々の仕事に追われ、幼児に余裕を持って接する時間、雰囲気減少している。
- 近年、**核家族化や共稼ぎ**により、幼児を十分しつけ・指導できない家庭環境にあることも否めない。
- “**気になる子**”や**発達障害のある幼児**の保護者は、園から状況等を報告するが、納得しない(受け入れない)。

4 行政関係

- 総合施設(仮称)は学校教育法と児童福祉法の保・教育の質を保障し、
0～2歳…家庭教育または家庭に代わる施設での教育
3～5歳…小学校以降の教育につながる学校教育 のため、今後、要領を策定予定
- 社会情勢の変化もあるが、**一貫性を持った県施策**を講じてほしい。
- H12以降、厚生労働省では“**子育て支援**”を充実させたが、これは保護者(親)の立場で都合のよい子育てではないか。

I 福井型幼児教育基本的な考え方 ～18年教育のスタート～

幼児のつながり

幼児を取り巻く様々なつながりを深めることによって、幼児期の成長を高めていく。

○ 親とのつながり

親子のつながりは、幼児期の成長の基本
(例) 鉛筆・箸の持ち方、規則正しい生活

○ 祖父母とのつながり

3世代同居・近居の特性を幼児教育につなげる
(例) 地域伝承や読み聞かせ

○ 保育所・幼稚園とのつながり

地域の幼児教育センターとして幼児を支援
(例) 育児・幼児教育支援

○ 地域住民とのつながり

伝統・地域行事の中での交流
(例) 祭礼や地区行事への参加

つながりの力を育む教育

保育所・幼稚園を核として、
家庭、地域の連携を深め、県民
全体の「つながりの力」
によって、子どもたちの育ちを
向上させる。

幼児教育に携わる者の つながり

幼児教育の質の向上を目指すため、従来の
公立・私立、保・幼・小の垣根を超えた相互
のつながりを深めていく。

○ 保育所・幼稚園と小学校とのつながり

それぞれの教育内容について相互理解の
下での円滑な保幼小接続
(例) 保幼小連携推進会議の開催

○ 保育所と幼稚園のつながり

保育所と幼稚園が連携し互いに高め合うこと
による幼児教育の質の向上
(例) 幼児教育キャリアアップシステム(仮称)

○ 塾・習い事の指導者とのつながり

塾・習い事・スポ少等の指導者と教員との
共通認識の情報共有

幼児自身のつながりの力

幼児自身のコミュニケーション力を高め、学びの基礎となる「つながりの力」を育てる。

① 感じる心

多様な体験、興味・関心に基づいた学び、相手の気持ちを察する心・意図をくみ取ろうとする心の醸成



② 伝え合う力

豊かな表現力を育むため、人との交流の場を作り、人と関わる力の育成



③ 認め合う心

自分・他人を大切に
する心(言いたいことが伝
わる喜び、聞いてもらえ
る嬉しさ、周囲からの肯
定の評価)の醸成



Ⅱ 福井県幼児教育プログラム(仮称) 骨子(たたき台)

序章 趣旨

第1編 幼児教育現場からのアプローチ(平成23年度) 第2編 家庭・地域へ広げる幼児教育(平成24年度)

第1章 本県の幼児教育の現状

1 本県幼児の状況

幼児保護者3,000人アンケート(H23)分析結果

2 保育所・幼稚園の状況

保育士・幼稚園教諭・小学1・2年生担任教諭3,000人アンケート(H23)分析結果

3 地域の状況

地域住民3,000人アンケート(H24)分析結果

4 全国比較による本県の特徴

幼児教育の全国調査を実施したベネッセ次世代研究所との連携調査分析結果

5 子ども・子育て新システム検討会議の検討状況

国の子ども・子育て新システム検討会議の検討状況の概要

第2章 保育所・幼稚園

1 基本的な考え方

保育所・幼稚園の役割や保護者からのニーズ等から求められる機能

2 具体的な県の支援策

(1) 保育所・幼稚園・小学校がつながる支援策～学校とのつながり～

保幼小連携 …保幼小連携推進会議の開催

(2) 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭がつながる支援策

～先生とのつながり～

幼児教育キャリアアップシステム(仮称)の創設

…本県独自の職員研修制度の創設

先生応援隊の創設…研修者参加職員の代替職員派遣制度の創設

第1章 家庭

1 基本的な考え方

家庭での育児や祖父母との関わり

2 保護者(家庭)と保育所・幼稚園・小学校がつながる支援策

～家庭とのつながり～

幼児教育ブックファースト

…幼児教育に資する童話などの購入・交換を促進

療育相談機関の充実…発達障害のある幼児・保護者の相談機能の充実

地域の幼児教育センター機能

…保育所・幼稚園の新たな機能(スーパー親カアドバンスコースなど)

第2章 地域

1 基本的な考え方

子ども会など地域住民との触れ合い

学習塾・習い事指導者との連携

2 地域と保育所・幼稚園・小学校がつながる支援策

～地域とのつながり～

幼児のエリア(地域)デビューの支援

…子ども会への幼児の参加促進

第3章 支援機関

1 福井県幼児教育センターの設立

～つながりの力を活かした支援拠点の設立～

2 主な機能

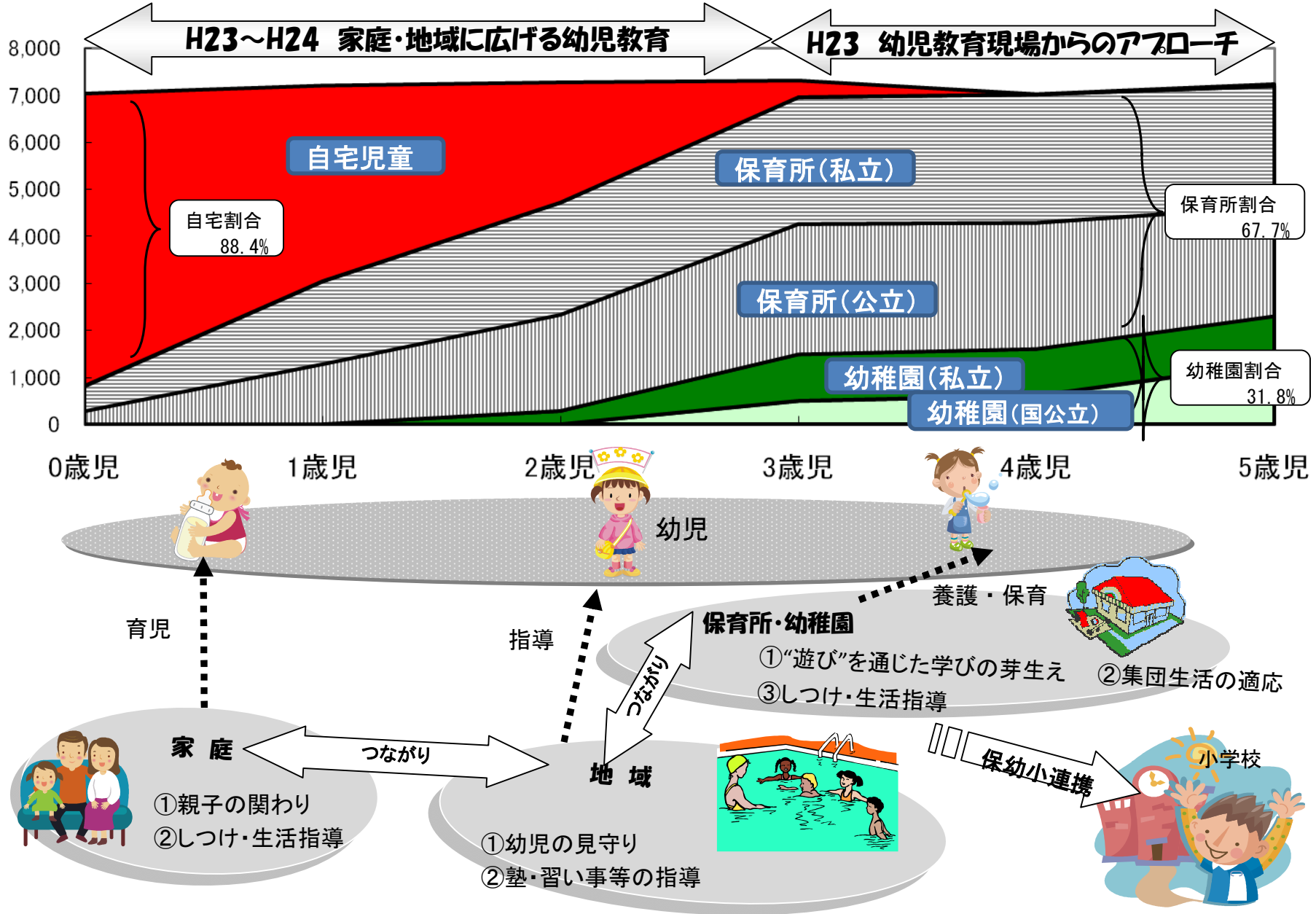
保育所・幼稚園、家庭、地域への支援内容

3 幼児教育コミュニティセンターの設置

家庭での幼児教育(特に0～2歳児)の支援拠点

…保護者・祖父母の育児や学びの支援

Ⅲ 幼児生活の実態に着目した策定の考え方



IV 実践段階へ進化させる福井型幼児教育施策

1 福井型幼児教育 スタートアップ施策

(1) フィンランド幼児教育セミナー ～フィンランドから学ぶ幼児教育～

フィンランド オウル大学 ハッカライネン教授を招へいし、PISA（OECD生徒の学習到達度調査）ランクで世界トップレベルのフィンランドの幼児教育の研究成果を披露し、今後の本県幼児教育のあり方を学ぶ。

① フィンランド 幼児教育報告

「子どもの発達に対する遊びの意義(仮題)」

ペンティ・ハッカライネン教授（フィンランド オウル大学）

② 本県幼児教育報告「福井県の幼児教育の現状等(仮題)」

福井大学教育地域科学部 岸野 麻衣 准教授

PISA（OECD生徒の学習到達度調査）ランク

順位	①読解力			②数学的リテラシー			③科学的リテラシー		
	'03	'06	'09	'03	'06	'09	'03	'06	'09
フィンランド	1位	2位	3位	2位	2位	6位	1位	1位	2位
日本	14位	15位	8位	6位	10位	9位	2位	6位	5位

(2) 福井県幼児教育プログラム策定委員会報告会 ～ふくい“before6”Report～

幼児教育実態調査の結果や策定委員会の審議開始を受けて幼児教育のスタートアップ・イベントを実施

① 福井県幼児教育実態調査報告(保護者・職員)

福井県幼児教育プログラム策定委員会 仁愛大学 西村教授

② 幼児教育全国アンケート結果と本県の比較

ベネッセ次世代育成研究所

③ 加古里子さん めばえっ子への応援メッセージ(予定)

④ 紙芝居“加古さんの科学絵本(仮題)”

福井大学地域教育科学部学生 (予定)



2 その他福井型幼児教育を推進するための施策

(1) 幼児教育実態調査 ～県政マーケティング調査～

○幼児保護者

県内幼児（0～5歳）の保護者3,000人を対象に幼児生活やしつけ等の意識調査

○保育所・幼稚園・小学校職員

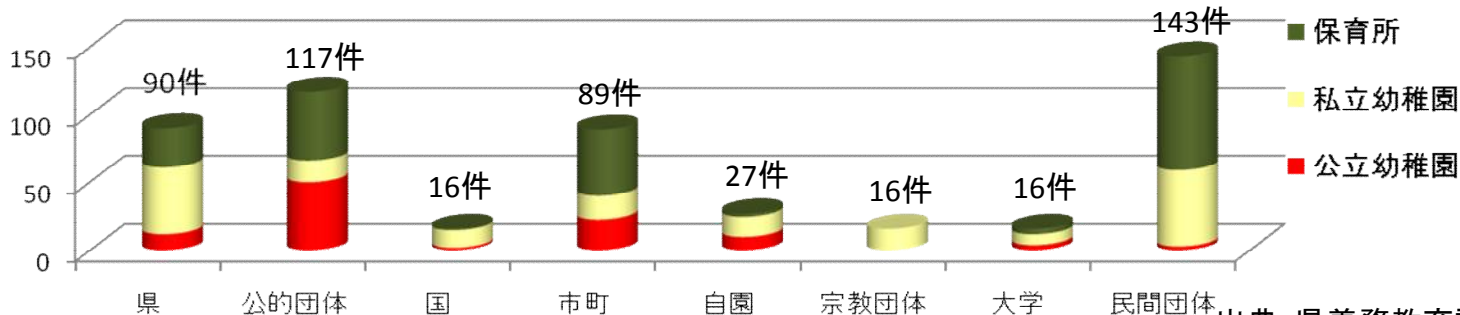
保育所・幼稚園または小学1・2年生担任職員3,000人を対象に職員の資質向上、保幼小連携等の意識調査

(2) 幼児教育キャリアアップシステム(仮称)準備会議

○保育所・幼稚園研修

研修メニューに応じて保育士・幼稚園教諭の研修の相互参加や知識習得・意欲向上につながる研修体系の見直しを協議

保育所・幼稚園研修の実施主体の状況



出典：県義務教育課

(3) 保幼小連携推進準備会議

○地域ごとの交流

職員や園児・児童間の交流を促進

小学校教諭（1・2年担任）が保育所・幼稚園を訪問し、来年度入学予定の園児の様子を視察
保育士・幼稚園教諭が卒園した児童の様子を小学校現場で視察し、園指導等に反映



V 今後のスケジュール

